

みんなの海

私たちのすぐ近くにある浅羽海岸。みんなの思い出がたくさんつまっています。

先人によって守られてきた浅羽の海や松林を後世に残していくために、
今、私たちにできることは何でしょうか。子どもたちの声をヒントに、
皆さんも考えてみてください。大好きなみんなの海を守るために…。

平成十八年度 浅羽南小学校児童作文集から

・ 久しぶりに海岸に行ったら、とても砂浜が狭くなったと思いました。
毎年やっていた砂の造形もできなくなっていました。また砂の造形やりたいなあ…。

・ 初めてアカウミガメを放流して、赤ちゃんカメに触りました。小さくても、手足を一生懸命バタバタさせて、海へ戻っていきま
した。

・ アカウミガメは、海岸が汚いと砂浜へ寄らずに、海へ戻ってしま
うそうです。アカウミガメが寄れるきれいな海岸にしたいです。



- ・お母さんカメが赤ちゃんを産む時の話を聞きました。一度に百二十個の卵を産んで、自分の生まれた海岸に帰ってくるのは、たった一匹だけだそうです。僕が放流したカメが二十年後、また浅羽海岸に戻ってきてくれたらうれしいです。
- ・車が砂浜を通ると、タイヤの跡（わだち）ができて、赤ちゃんカメやお母さんカメが海に戻れずに死んでしまうと聞きました。「人間は悪いことをしているんだな」と思いました。私は大きくくなって車に乗れるようになっても、車で砂浜に入らないようにしたいです。
- ・海岸でゴミ拾いしたら、ビニール袋やポリ袋、花火のかす、発泡スチロールなどいろいろなゴミが落ちていました。アカウミガメは、人間が捨てたビニール袋やポリ袋を食べてしまって、死んでしまうことがあるそうです。もっと海岸をきれいにしたいと思います。
- ・一生懸命、ハマボウフウの種をまきました。大きく育って、海岸がハマボウフウの花でいっぱいになるのが楽しみです。
- ・ゴミ拾いをして、砂浜がきれいになって気持ちよかったです。ごみを捨てないようにして、これからも、海や自然に優しいことをしていきたいです。

